

【シンポジウム】

医薬品・医療機器の費用対効果の評価と応用

-日本の現状と今後の展望-

(共同企画：ISPOR 日本部会)

【座長】

齋藤信也 先生 (岡山大学)

福田敬 先生 (国立保健医療科学院)

【シンポジスト (敬称略)】

医薬品・医療機器の費用対効果評価制度の現状

田倉智之 先生 (東京大学)

費用対効果評価制度における分析上の留意点

白岩健 先生 (国立保健医療科学院)

医薬品・医療機器企業の対応

田村誠 先生 (医療システムプランニング)

費用対効果評価制度の課題と今後の展望

池田俊也 先生 (国際医療福祉大学)

アウトカム評価研究の推進に向けて

能登真一 先生 (新潟医療福祉大学、ISPOR 日本部会会長)

【特別発言】

池上直己 先生 (慶應義塾大学 名誉教授)

〔企画の趣旨〕

医療の効率的な提供が求められる中、イギリスやオーストラリア等の諸外国においては、医薬品等の費用対効果評価を行い、公的な医療保障制度での意思決定等に応用している国がある。日本でもこのような制度の必要性が中央社会保険医療協議会において議論され、2019年度より医薬品・医療機器の費用対効果評価制度が開始された。この制度では、薬価や材料価格算定上の加算や市場規模予測などの一定の要件を満たした品目を選定し、費用対効果の評価を行った上で、必要に応じて価格調整をするしくみである。指定された品目については、まず製造販売業者が分析を行い、これを検証・再分析して最終的な評価結果を導くようになっている。制度開始から1年半が経過し、いくつかの品目については評価結果が出てきている。本シンポジウムでは、医薬品・医療機器の費用対効果評価制度の概要を振り返り、分析上の留意点や企業の対応、さらに制度の課題や今後の展望、また研究として必要な取り組み等について議論する。

なお、本シンポジウムは薬剤等の経済評価研究やアウトカム評価研究を中心的なテーマとして取り扱う国際学会である ISPOR(International Society for Pharmacoeconomics and Outcomes Research)の日本部会との共同企画で開催される。